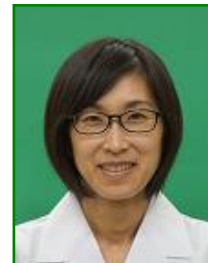


ERASプロトコル(術後早期回復強化策)について



麻酔科
金子 医師

手術を受けることで様々な疾患を治すことができますが、それにより生体(身体)には大きな侵襲(ストレス)が加わります。麻酔は、痛みや不安などの侵襲から生体を守り、安全に手術を行うための医療行為です。

古くからの麻酔の概念として「鎮静(意識をなくすこと)」「鎮痛(痛みを取ること)」「不動化(安全のために体を動かなくすること)」という三要素がありますが、これは主に手術中に対するものです。現在は、手術前と手術後も含めた期間を「周術期」として一連の流れで捉え、周術期の生体への侵襲をできる限り軽減して早期回復を図るという考え方が普及しており、その主な指針に「ERASプロトコル(Enhanced Recovery After Surgery : 術後早期回復強化策)」があります。

ERASプロトコルの目的は、①手術侵襲の軽減 ②手術合併症の予防 ③術後の回復促進です。これにより、安全性を向上しつつ患者様の早期社会復帰と医療費削減も達成できるとされています。

ERASには17項目の主要要素がありますが(図)、主治医や麻酔科医、看護師、理学療法士など、周術期に関わる全てのスタッフが連携して行う必要があります。当院麻酔科では麻酔科単独で介入できる項目(術中の輸液・体温管理、使用薬剤の選択、鎮痛法など)はもちろんのこと、その他の項目に関しても主治医などと連携し積極的に取り入れております。例えば、不要な尿道・胃管カテーテル留置の廃止に伴い早期離床が促進されたり、また、可能な場合は手術当日の朝食や夕食を提供することで、空腹によるストレスや嘔気がかえって軽減されたりと、いずれも患者様の満足度の向上にもつながっています。離床や食事等で日常生活のリズムを早く取り戻すことで、高齢者に多い術後せん妄予防の効果も報告されています。

ERASはあくまでも指標ですので、その概念の中で患者様の状態や術式により、安全面を考慮して個々に合わせた周術期管理を行っています。

またERASのカテゴリーではありませんが、多忙な現代社会のニーズも反映し、術式によっては当日入院や翌日(当日)退院の短期在院体制にも対応した麻酔も提供しています。

麻酔に関しまして不安や疑問点などございましたら、主治医や看護師を通じてご遠慮なくご相談ください。

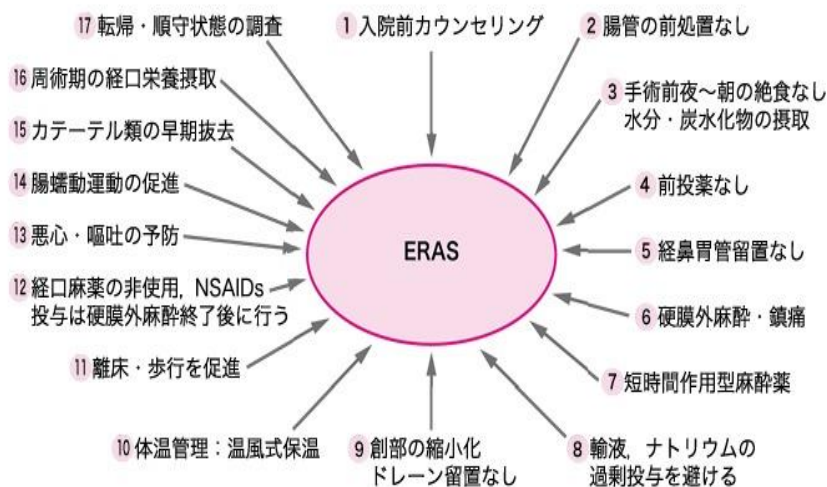


図 ERASプロトコル

5月 新任医療スタッフの紹介



今野 宏美 健康管理センター医師

出身地：宮城県 趣味特技：ダンスなどスポーツ全般、旅行

紹介：私は、職場の健康管理を担当し、皆さんが健康かつ快適に働ける様にお役に立ちたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



後藤 優夏 医療技師

出身地：宮城県 趣味 食べ歩き

紹介：病院内にある様々な医療機器を、いつでも安全に使用できるように努めてまいります。よろしくお願い致します。

医療の豆知識 X線（レントゲン）撮影とは

1895年、レントゲン(Wilhelm Conrad Rontgen, 1845-1923)によってX線(X;未知なもの)は発見されました。現在では多くの検査(一般撮影、CT、上部消化管、その他)に応用され、医療にはなくてはならない存在となっています。X線(レントゲン)撮影で何がわかるのか、またその仕組みについて胸部レントゲン検査を例にご説明いたします。

X線の物質を透過する性質を利用して外から見えない体内の物質や空気、あるいは厚みなどから得られた影(陰影)を画像として観察しています。胸部レントゲン検査では、主に心臓、肺、肋骨、縦隔、気管などを確認できます。

X線は放射線の一種であり当然被曝も同時に発生しますが、人間は医療被曝以外に一人当たり年間約2.4ミリシーベルト(空気中から1.2、食物から0.3、大地から0.5、宇宙から0.4)の自然被曝をしています。

ガイドライン(日本放射線技師会2006)では、胸部レントゲン検査の被曝量は0.3ミリシーベルト以下に定められており、1回の胸部レントゲン検査の被曝量は自然放射線量の約1/100でとても少ないことがわかります。またそれを利用して、病気の早期発見、早期治療、治療経過に役立っているのです。

現在は装置や技術の進歩も相まってさらに被曝量は減少していますが、今後も被曝低減に向けた取組は必須であり、当院でも取り組んでいるところです。

みなさまのご理解が深められたら幸いです。ご不明な点はスタッフにお尋ねください。

【放射線科医療技師長 佐藤栄一郎】



5/10 エレベーター救出訓練を行いました

地震や災害でエレベーターが停止すると、非常電源が働き、自動で最寄階に停止、ドアが開きます。訓練では完全に停電した場合を想定して参加者が実際に非常解錠鍵を使って手でドアを開けたり、エレベーターからの脱出を体験しました。



5/19 仙台あおば祭りに参加しました

JR東日本のすすめ踊りの一員として、JR仙台病院の看護師や技師が本まつりに参加しました。新緑の五月晴れの中、お囃子や踊りに練習の成果を披露し、沿道からは手拍子や盛んな拍手を頂いていました。



理念

高度で良質な医療と心のこもった患者サービスで地域社会に貢献し、調和のとれた企業立病院をめざします。

院 是
調 和

～ 基本方針 ～

1. 高度かつ良質な医療を提供し、地域医療機関との機能連携を強化して企業立病院として社会貢献します。
2. プライバシーの尊重と最善のアメニティに配慮し、安心と満足が得られる快適な療養環境を整備します。
3. 全スタッフが一丸となって心のこもった患者サービスを提供します。
4. 日々研鑽に努め、責任を持って仕事に携わる質の高い医療人を育成します。
5. 医療環境の変化に対応できる健全な医療経営に努めます。